

企画・編集：野澤久美子 神奈川県立こども医療センター 放射線科

## 序 説

本特集のテーマ『絶対苦手分野にしない 小児の画像診断』を目にしたとき、たいそう難しいお題だと感じた。「絶対」というのはハードルが高く、また、領域やモダリティを限定せずに「小児全般」の画像診断が対象である。小児専門病院以外の医療施設では小児症例は成人症例に比べて圧倒的に少なく、少ない症例のなかに多岐にわたる疾患が含まれることを考えると、「苦手」というか「かかわりたくない」と思われてしまうのも仕方ないことかもしれない。一方で、小児画像診断に関するセミナーや教育講演は受講者も多く、需要があると感じており、「かかわりたい」と考えている放射線科医は少なくないと思う。

そこで、これから放射線診断を学ぶ若手の先生方にとって小児画像診断が「苦手」とならないことを願い、日常診療で画像診断が行われる比較的頻度の高い疾患や検査目的を8項目設定し、モダリティの選択や読影の際の注意点などをわかりやすく解説する内容を企画した。

中枢神経系では、周産期センターやNICUをもつ施設では避けて通れない新生児の頭部画像診断について、横浜市立大学医学部 放射線診断学 加藤亜結美先生らに解説していただいた。頸部腫瘍は日常診療で画像検査の対象になることが多く、先天性疾患や後天性疾患などさまざまであるが、診断の進め方や鑑別のポイントについて、名古屋市立大学大学院医学研究科 放射線医学分野 中川基生先生らに解説していただいた。胸部領域は、呼吸器感染症と先天性心疾患を取り上げ、慶應義塾大学医学部 放射線科学教室 巷岡祐子先生と埼玉県立小児医療センター 放射線科 田波 穰先生に解説していただいた。腹部領域のcommon diseaseの代表である急性腹症、肝・胆・膵疾患、尿路感染症については、聖マリアンナ医科大学 放射線診断・IVR学講座 洲上淳也先生ら、兵庫県立こども病院 放射線診断科 赤坂好宣先生、国立成育医療研究センター 放射線診療部 宮坂実木子先生にご執筆いただいた。そして、小児の骨折について自治医科大学とちぎ子ども医療センター 小児画像診断部 古川理恵子先生に解説していただいた。いずれも、本特集の主旨をご理解いただき、総論・各論を交えた放射線科医が知っておくべき事項を、わかりやすく、限られた誌面に凝集された玉稿ぞろいで、日常診療にすぐに役立つ内容がぎっしり詰まった希望した以上の素晴らしい内容となった。依頼医に伝わる画像診断報告書の作成や、画像診断の進め方・検査モダリティの選択などで他科医師からの相談への対応にも役立つ内容が含まれている。

ご多忙のところ、特集の主旨をご理解いただき快くご執筆くださりました先生方に改めて深謝申し上げます。

本特集を、放射線診断専門医を目指す若手医師のみならず、すでに少なからず小児に苦手意識をおもちの放射線科医の先生方にも手にとっていただきたい。始めから小児全般ではなく、ご自身の得意な領域からでも小児画像診断に興味をもっていただき「小児も読影しますよ」と小児科や小児外科医に対応する放射線科医が1人でも増えれば望外の喜びである。

野澤久美子